



1. 生育状況を見て倒伏軽減を検討しましょう！

本年の起生期追肥時は、過繁茂状態での追肥が多くみられました。窒素量は少なめですが、それでも例年より茎数が多い傾向にあります（表1）。

茎数が多くて葉色が濃いなど明らかに倒伏すると判断される場合、植物成長調整剤の使用を検討しましょう（平年の幼穂形成期：5月2日、止葉期：5月27日、出穂始：6月3日）。

表1 参考：平成31年秋の小麦生育状況（平成31年4月19日調査）

地区	畦幅(cm)	茎数/m ²	備考
JA今金エリア	12.5～18.0	1,637	3ほ場平均
JAきたひやまエリア	12.5～18.0	1,600	2ほ場平均
JA新はこだて若松基幹支店エリア	12.5～18.0	1,827	2ほ場平均

薬剤使用例

薬剤名	系統名	使用量 (/10a)	使用時期	使用回数
サイコセル PRO	クロルメコート	150～200ml	幼穂形成期	1回
		200～300ml	出穂前20～10日 (草丈約40～60cm)	1回
カルタイム フロアブル	プロヘキサジオン	150ml	止葉期～出穂始期	1回
エスレル10	エテホン	300～500倍 (333～200ml)	止葉期～出穂始期	1回

※サイコセルPROは、2回以内（幼穂形成期は1回以内、幼穂形成期後は1回以内）の総使用回数となります。

①サイコセルPRO

散布時期が遅れると効果が劣る。

散布直後に降雨があっても再散布は行わない。

高温時の散布で薬害を生じることがあるので、晴天の日は日中を避け夕方に散布する。

②カルタイムフロアブル

伸長を過度に抑制させないために、必ず所定の使用量、使用時期を厳守し、多量散布や重複散布にならないように注意する。

展着剤は加用しない。

また、参考としてシルバキュア、チルト乳剤、アミスター20フロアブル、アドマイヤー顆粒水和剤、エルサン乳剤等と混用する事例では問題はなかったとの使用例がありますが、積極的に進めるものではありません。混用については、関係機関と相談して下さい。

尿素との混用は避ける。

③エスレル10

30%以上の出穂をみてからでは倒伏軽減効果が劣る場合があるので適期に処理する。

④一部の植物成長調整剤は他剤と混用せず、除草剤散布との間隔をあける。

●安全第一で農作業を行いましょー！！●○